

資源評価調査事業－I

我が国周辺水産資源評価 (主に熊野灘海域)

佐口智之・宮本敦史・駒田文菜・岡田 誠
・上谷和功¹⁾

1) 三重県栽培漁業センター

目的

熊野灘周辺海域における重要漁業資源の資源評価および動向予測、最適管理手法の検討のために必要な基礎資料を収集するための調査を実施するとともに、調査結果を三重県沿岸への来遊資源動向予測や資源状態の把握に資することを目的とする。

方法

1 漁獲情報収集調査および生物情報収集調査、卵稚仔調査

県内主要港において、日別、漁業種類別、魚種別漁獲量を調査した。また、主要調査対象魚種（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、さば類、マアジ、スルメイカ、トラフグ、ブリ、サワラ等）については毎月1～4回程度、県内主要市場において魚体測定を行い、漁獲物の生物特性を把握した。また、漁獲時の漁場位置、海況などについて聞き取りを行い、漁獲動向等の情報収集に努めた。成熟度は生殖腺重量/体長³×10⁻⁷により求めた。

トラフグでは、新規加入実態を把握するため、鈴鹿市白子海岸で砕波帯ネットによる稚魚の採集調査を実施した。

卵稚仔調査では、毎月1回、調査船「あさま」により、伊勢湾16定点（1～3月は8定点）および熊野灘11定点において改良型ノルパックネットの鉛直曳きを行い、調査対象種の卵稚仔の出現動向を把握した。

結果及び考察

1 漁獲情報収集調査および生物情報収集調査、卵稚仔調査

各魚種の資源評価結果およびその動向予測の詳細は国立研究開発法人水産研究・教育機構から別途報告されるため、ここでは主要な魚種について、2024年度の三重県沿岸域への来遊状況および生物特性をとりまとめた。

1) マイワシ

①熊野灘海域

2024年度の熊野灘中型まき網主要4港(贄浦, 奈屋浦, 錦, 紀伊長島)における漁獲量は598トンで、前年度(66

トン)を大幅に上回り、過去10年度平均(15,416トン)を大幅に下回った。月ごとの漁獲では、8月が258トン、9月が168トンとまとまった。漁獲主体は、8月は体長(被鱗体長, 以下同じ)14cm前後、9月は14～16cmであった。

0歳魚(2024年級群)は、定置網において、4月に4～5cmを主体に漁獲加入し、6月には8cm前後が出現した。成熟、産卵について、2024年秋期～2025年春期は、来遊が極めて少なく、熊野灘では産卵親魚のサンプルを入手できなかった。

卵稚仔調査では、卵、仔魚ともに採集されなかった。

②伊勢湾海域

2024年度の伊勢湾主要2港(白子, 白塚)におけるバッチ網, 船びき網による漁獲量は39トンで、前年同期(0トン)を大幅に上回り、過去10年平均(7,957トン)を大幅に下回った。漁獲主体は、7月は12cm前後、9月は14～15cm、10月は15cm前後であった。

卵稚仔調査では、卵、仔魚ともに採集されなかった。

2) カタクチイワシ

①熊野灘海域

2024年度の熊野灘中型まき網主要4港における漁獲量は123トンで、前年度(25トン)を大幅に上回り、過去10年度平均(1,057トン)を大幅に下回った。月ごとの漁獲では、7月に18トン、8月は103トンとややまとまり、その他の月ではほとんど漁獲されなかった。漁獲主体は、7月は体長(被鱗体長, 以下同じ)11cm前後、8月は10cmであった。

成熟、産卵について、成熟度では2024年4月は7～12cmで1.9～9.0(n=60, 成熟度5以上の割合42.6%)、5月は7～13cmで0.3～9.6(n=120, 30.0%)、7月は9～12cmで1.5～4.3(n=30, 0.0%)、9月は12cm前後で0.3～0.6(n=3, 0.0%)であった。

卵稚仔調査では、卵は2024年4月～8月、11月、2025年3月、仔魚は2024年5月～8月、11月に採集された。採集のピークは卵および仔魚ともに6月であった。

②伊勢湾海域

バッチ網、船びき網による漁獲は6月から始まり12月まで続いた。伊勢湾主要2港におけるバッチ網、船びき網による漁獲量は9,469トンと前年度(7,837トン)を上回り、過去10年度平均(12,391トン)を下回った。漁獲は7月に最も多く、その後減少傾向で推移した。漁獲主体は、6月は9~10cm、7月は9~10cm、8月は7~8cm、9月は5~6cmおよび10cm前後、10月は8~9cm、11月は9cm前後、12月は8cm前後であった。

成熟、産卵について、成熟度では6月は9~11cmで0.3~7.8 (n=108, 成熟度5以上の割合15.7%), 7月は5~12cmで0.0~6.7 (n=535, 0.0%), 8月は6~11cmで0.0~6.0 (n=252, 0.0%), 9月は5~11cmで0.0~7.0 (n=410, 13.2%), 10月は5~11cmで0.0~8.7 (n=322, 10.6%), 11月は5~11cmで0.0~6.6 (n=367, 6.8%), 12月は5~11cmで0.1~5.2 (n=225, 0.0%)であった。

卵稚仔調査では、卵は2024年4~12月、仔魚は5~12月に採集された。採集のピークは卵および仔魚ともに5月であった。

3) ウルメイワシ

2024年度の熊野灘中型まき網主要4港における漁獲量は2,807トンで、前年度(3,079トン)および過去10年度平均(4,632トン)をともに下回った。漁獲は10月に最も多く785トン、次いで8月に737トンであった。漁獲主体は、8月は体長(被鱗体長、以下同じ)10~11cmおよび13cm前後、10月は15~18cmであった。

成熟、産卵について、5月は17~22cmで成熟度1.6~7.8 (n=17), 9月は20~22cmで成熟度0.1~0.7 (n=15), 10月は18~23cmで成熟度0.1~3.5 (n=30), 11月は17~23cmで成熟度0.0~1.1 (n=28), 12月は20~24cmで成熟度0.1~8.4 (n=30)であった。

卵稚仔調査では、熊野灘海域においては、卵は2024年4月、2025年3月、仔魚は11月に採集された。伊勢湾海域においては、卵は採集されず、仔魚は12月に採集された。

4) さば類

2024年度の熊野灘中型まき網主要4港におけるさば類の漁獲量は1,110トンで、前年度(1,607トン)を下回り、過去10年度平均(20,219トン)を大幅に下回った。

ゴマサバの漁獲量は1,088トンで、前年度(1,592トン)を下回った。漁獲は10月に最も多く、次いで7月もやや多かったが、期を通じて低調で推移した。漁獲主体は、7月は体長(尾叉長、以下同じ)21~23cmおよび35~36cm、10月は24~26cmおよび36~37cmであった。

マサバの漁獲量は24トンで、前年度(16トン)を上回った。漁獲は期を通じてまとまらなかった。漁獲主体

は、9月は22~24cmおよび31~33cmであった。2024年春季は黒潮続流が北偏傾向で推移したため、南下回遊群が太平洋漁場周辺海域に来遊せず、2023年春季に引き続き、太平洋沿岸での記録的な不漁に繋がった可能性がある。

0歳魚(2024年級群)は、ゴマサバでは、定置網において、2024年4月は7~9cmで漁獲加入し、5月は8~10cmおよび13~15cm、6月に14~17cm、まき網においては、7月に21~23cmがそれぞれ主体となって漁獲された。マサバでは、定置網において、4月に7~8cmで漁獲加入し、5月に7~8cmおよび14~15cm、6月に13~14cmおよび17~18cm、まき網においては、7月に17~19cmがそれぞれ主体となって漁獲された。なお、加入群では、3~6月にかけてゴマサバが多数を占めていた。

成熟、産卵について、ゴマサバは2024年4月に体長31~34cmで成熟度3.2~15.2 (n=10), 9月に33~39cmで成熟度0.1~0.8 (n=9)であった。マサバは9月に32~35cmで成熟度0.7~1.0 (n=5)であった。

卵稚仔調査では、熊野灘海域においては、マサバ卵は2024年6月に採集され、ゴマサバ卵は採集されなかった。サバ属仔魚は5月、6月に採集された。伊勢湾海域においては、マサバ卵は5月に採集され、ゴマサバ卵は採集されなかった。サバ属仔魚は5月に採集された。

5) マアジ

2024年度の熊野灘中型まき網主要4港における漁獲量は1,209トンで、前年度(623トン)および過去10年度平均(684トン)をともに上回った。漁獲は2025年2月に最も多くまとまり、その月の漁獲主体は、体長(尾叉長、以下同じ)15~17cmおよび20~22cmであった。

成熟、産卵について、9月は18~21cmで成熟度0.1~1.5 (n=12)であった。

卵稚仔調査では、熊野灘海域においては、卵および仔魚ともに2024年4月、6月に採集された。伊勢湾海域においては、卵は採集されず、仔魚は6月、7月に採集された。

6) スルメイカ

2024年度の奈屋浦港における中型まき網の漁獲量は4トンで、前年度(3トン)を上回った。漁獲は期を通じてまとまらなかった。

7) トラフグ

2024年10月~2025年2月期の5港(答志, 安乗, 波切, 遊木, 鶴殿)における延縄によるトラフグの漁獲量は48.0トンで、前年期(34.7トン)を上回り、過去10年期平均(27.0トン)も上回った。漁獲主体は例年と同じ

く1歳魚（2023年生まれ）とみられる全長30cm台の個体であった。

砕波帯ネットによる着底期仔稚魚調査は、5月下旬～7月上旬にかけて6回実施した。最多採集日における平均採集個体数は0.13個体で、前年比8%、過去5年平均比20%であった。

8) ブリ

2023年10月～2024年9月期の主要大型定置網17統における漁獲尾数は、ブリ銘柄（6kg以上）は272,924尾（漁獲量2,113トン）で、前年期（245,235尾）を上回り、過去50年間では7番目の漁獲尾数となった。ワラサ銘柄（2～6kg）は71,377尾（同313トン）、イナダ銘柄（0.5～2kg）は15,772尾（同11トン）であった。

9) サワラ

2024年1～12月期の鳥羽磯部漁協における一本釣りの

漁獲量は133トンで、前年期（132トン）並で、過去10年期平均（229トン）を下回った。2024年7～12月期の鳥羽磯部漁協における流し刺し網の漁獲量は95トンで、前年期（47トン）を大幅に上回り、過去10年期平均（154トン）を下回った。

関連報文

令和5年度三重県ブリ定置漁獲統計，三重県水産研究所.

令和6年度わが国周辺の水産資源の評価，水産庁増殖推進部・国立研究開発法人水産研究・教育機構.

2024年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報，国立研究開発法人水産研究・教育機構.

2024年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報，国立研究開発法人水産研究・教育機構.

2024年度太平洋いわし類長期漁海況予報，国立研究開発法人水産研究・教育機構.